

第6回農業塾の内容（概要）

1 限目 講義「人間と動物の関わり」

講師：大原興太郎（三重スローライフ協会理事長）

2 限目 講義「イモ類（サトイモ）」

講師：森川茂幸

1 サトイモの特徴

- ・山野で自生するヤマノイモに対し、それと区別するため、里で作られるイモの意で里芋と呼ばれるようになった。
- ・茹でてそのまま食べるほか、煮物、田楽など用途は広い。
- ・インド原産といわれ、わが国には縄文時代中期に中国南部から島伝いに北上してきた。
- ・イモは茎が肥大したもので、食用上の分類から親イモ用種、子イモ用種、葉柄用種に分けられている。
- ・サトイモのほとんどは3倍体であり、栽培品種はその地域の栽培条件に適した系統を選抜したものになっている。
- ・サトイモは連作障害が発生することがあるので、5年に1度の作付が望ましい。

2 栽培

- ・収穫を早めるため、温床などで催芽してから定植することがあるが、普通露地栽培では必要ない。
- ・4月下～5月中に定植すれば、10～11月に収穫することになる。
- ・栽培のコツは生育初期から一定の肥効を続けることなので、きめ細かい追肥が有効である。

3 収穫

- ・試し掘りによって収穫時期を決定した方がよい。
- ・サトイモの貯蔵は、収穫した株を崩さないことである。
- ・貯蔵温度は $8 \pm 1^{\circ}\text{C}$ がよく、 7°C 以下だと低温障害を受け、 12°C 以上になると発芽してしまう。

3 限目 実習「秋冬野菜の収穫」

講師：藤田育美、森川茂幸

- ・秋冬野菜（ダイコン、ハクサイ、ミズナ、ミブナ、カブ、チンゲンサイ、コマツナ、ネギ、ハウレンソウなど）の収穫をしました。
- ・収穫物はみんなで配分しました。